

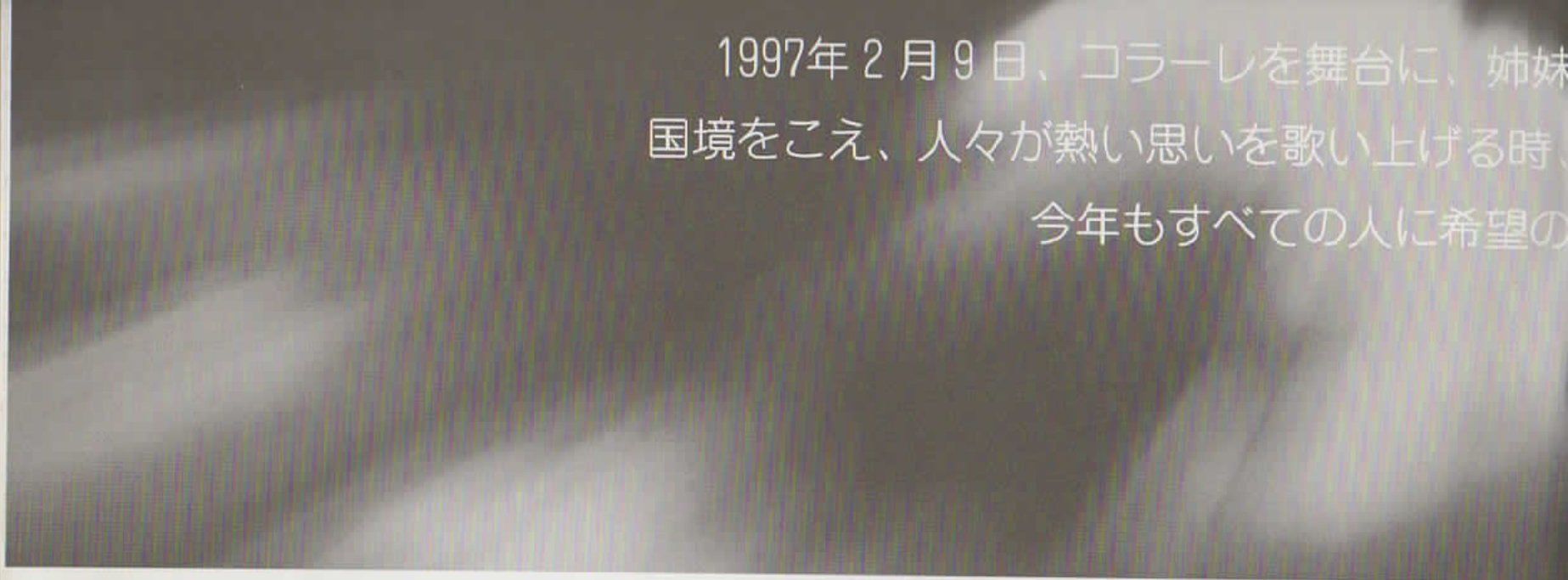


Beethoven Symphony
No.9
In d minor op. 125
"Choral"

黒部国際交流音楽祭

愛が響く日。

1997年2月9日、コラーレを舞台に、姉妹
 国境をこえ、人々が熱い思いを歌い上げる時、
 今年もすべての人に希望の



A RING OF FRIENDSHIP

"We now sign for the ring of our lasting friendship"

This can be seen in a framed declaration, hanging on the wall of the council chamber in Sneek town hall. It recalls 23rd May 1984 when mayors George M. Israel of Macon, Yukikazu Ogino of Kurobe and Bernhard van Haersma Buma of Sneek festively ratified the bonds of friendship between their cities on the occasion of the 30th anniversary of the foundation of Kurobe City. This was nothing new. The document and signatures symbolize far more than anything that can be captured in words. At that time, Kurobe and Sneek already had a tradition of friendship dating back fifteen years. And we have now enjoyed more than a quarter of a century of meetings and contacts as part of an international ring of friendship which encircles the entire world. I would like to wish you every success with your new international cultural centre and express the hope that this culture will contribute towards values which give everyday life an extra dimension throughout the world. My sincere compliments on the ingenious idea of opening an international cultural centre with a performance of "Alle Menschen werden Brüder". Sneek is proud of having the opportunity to make a contribution towards this.

S.J. Hartkamp
 Mayor of Sneek

スネーク市長のごあいさつ 友情の輪

「私たちは今、いつまでも続く「友情の輪」に署名します。」
 この言葉は、スネーク市役所の議場の壁に掛けられている宣言書の中に書かれています。この言葉は私に、黒部市の市制30周年を記念して1984年5月23日に、メーコン市のジョージ・M・イスラエル氏、黒部市の荻野幸和氏、スネーク市のベルンハルト・ファン・ハースマ・ブマ氏の各市長が友好の絆を祝して署名したことを思い起こさせます。

「友情の輪」は何もその時に始まったわけではありません。宣言書は言葉で表現できる以上のことを象徴しています。当時既に、黒部とスネークの友情の歴史は15年の歳月を数えていました。そして私たちは今、国際間の友情の輪の一環として、25年以上の出会いと交流を楽しんでいます。

私は、新しくできた黒部市国際文化センターの成功と、そこでの文化が人々の日常生活に新たな価値を与えることを希望します。

「Alle Menschen werden Brüder」の演奏で国際文化センターをオープンするという独創的なアイデアに心から賛同いたします。

スネーク市は、この様な文化・交流活動に貢献できる機会を持つことを誇りに思います。

敬 具
 スネーク市長 S・J・ハルトカンブ

CHORUS ROSTER スネーク市民合唱団

Soprano ソプラノ



M. van Brug
 M.ファンブルク



G. Gaastra
 G.ハースラ



M. Leijendekker
 M.レイエンデッカー



J. Potma
 J.ポットウマ

Alto アルト



C. Gielingh
 C.ヒーリング



B. Kool
 B.コール



T. Terpstra
 T.テルプストラ



A. Wijkstra
 A.ウィクストラ

都市スネーク市とのジョイント合唱が実現。
 交流を深めた愛のハーモニーが響き渡ります。
 歌を——名水の里 黒部から。



Musical bond of friendship

We are eagerly awaiting our trip to Japan. Especially the chance to learn about your ancient culture. And we are looking forward most of all to meeting the inhabitants of our twin city.

Bonds of friendship between two cities, separated by almost the entire globe. Two worlds which are so different and can therefore enrich each other. Two languages and two cultures participating in an ingenious idea: Singing Beethoven's ninth together.

The words and old music bring us together. We cannot imagine a better start for a new cultural centre.

delegation leader music teacher

Jan van der Zweep

音楽による友情の絆

この度は、私たち合唱団を招待していただき厚くお礼申し上げます。私たちは日本に行き、日本の伝統文化に直接触れる機会が与えられたことを心から喜んでおります。そして何よりも姉妹都市である黒部市民の皆様にお会い出来ることを大変楽しみにしております。

黒部とスネークでは地球の正反対の位置にあり、それぞれの世界は大変異なります。しかし、それゆえお互いに認め、高め合うこともできるのです。ふたつの言葉と文化は、共にベートーヴェンの「第九」を歌う…という計画に参加することにより友情の絆を深めることが出来るのです。古くから伝わる詩や音楽は私たちに連帯感をもたらします。私たちの歌で文化センターのスタートを飾れることを光栄に存じます。

指導および団長 ファン・デ・ズウェープ

Tenor テナー



A. Folkerts
A. フォルクエルツ



G. Hogendorp
G. ホーヘンドルプ



D. de Vries
D. デ・ヴリース



L. Leeffers
L. リーフェールス

Bass バス



G. Bakker
G. バッカー



D. Dijkstra
D. ダイクストラ



T. de Vries
T. デ・ヴリース



J. van der Zweep
J. ファン・デズウェープ



黒部国際交流音楽祭実行委員会
黒部で第九を歌う会会長

森丘 實

Minoru Morioka

Executive Director, International Music Festival
President, Beethoven's Symphony No.9 Choir



黒部市長

荻野 幸和

Yukikazu Ogino

Mayor of Karube



黒部第九友の会会長

中上 彬

Akira Nakagami

President, Beethoven's Symphony No.9 Choir Association

「コラーレ」に響き合う国際交流の「歓喜」

本年の黒部国際交流音楽祭は、昨春米国ジョージア州マーコン市の合唱団を招待したのに引き続き、もう一つの海外姉妹都市であるオランダのスネーク市から合唱団を迎えて、第4回名水の里第九コンサートを開催するはこびとなりました。

輝く雪の嶺々を背景にいただく黒部の自然は極めて魅力的で、広く内外に知られており、来訪された多くの方々の心を魅了しております。この素晴らしい黒部の大地に立つ「コラーレ」の殿堂に、今まさにベートーヴェンの芸術の頂点とも言われる「第九」が響きわたろうとしています。

この遙か海を越えたスネーク市とのジョイント合唱によるハーモニーが生み出す歓喜と感動の大きな渦が、地域の豊かな文化の発展につながっていくことを念じて止みません。

これまでにご指導、ご支援賜りました富山県、黒部市、YKK株式会社をはじめ関係諸団体、関係各位にあらためて厚く御礼申し上げます。

名水の里に響け歓喜のハーモニー

本日、第4回名水の里第九コンサートが、ここコラーレの大ホールにおいて盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

今回は、昨年の姉妹都市アメリカ合衆国マーコン市との音楽交流に引き続き、同じく黒部市の姉妹都市であるオランダ王国フリースランド州スネーク市からの市民合唱団を招いての国際交流音楽祭とのことであり、そのすばらしい企画に心から称賛をお送りいたします。

新しい地域文化の創造は、私たち地域の住民が共に文化に親しみ味わっていく中からはじめて生まれてくるものといえるでしょう。その意味においてこの名水の里第九コンサート事業は誠に意義深いものであり、積極的に企画・運営に参加された音楽を愛する皆さんの情熱と行動力に対し深く敬意を表すものであります。

どうか、黒部で第九を歌う会の皆様には、日頃の練習成果を十分に発揮され、本日のコンサートが成功裡に終わりますようご折念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

黒部らしい第九コンサート

ベートーヴェンの第九「歓喜」を歌い始めて4回目を迎えました。黒部市国際文化センター「コラーレ」のオープニングをお祝いする目的でしたが、「第九」の不思議な魅力と申しますか、あるいは本格的なホールで歌えた喜びが、まだ続けられないものかとの声が強くなり、本日を迎えることになりました。これひとえに関係各位のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

県内ではいくつかの「第九コンサート」が開催されておりましたので、私たちは何か黒部独特の、黒部市らしい「第九」を歌いたく、国際文化都市「黒部」の名に相応しい企画をたてて参りました。昨年はマーコン市合唱団をお迎えしました。私たちの小さな力でもこのような素晴らしい国際交流を果たすことができました事は、まさに「第九」の魔力と申せましょう。今回のコンサートには姉妹都市スネーク市の合唱団をご招待致しました。必ずや言葉を越えた、立派なハーモニーが得られ友好の実が挙げられますことを確信致しております。

皆様方のご援助に添わると同じく、今回も大切に練習を重ねて参ります。



北日本新聞社代表取締役社長

上野 隆三

Ryūzō Ueno
President, Kita-Nihon Newspaper



北日本放送株式会社代表取締役社長

角尾 信一

Shinichi Kakuo
President, Kita-Nihon Broadcasting Co.



富山県合唱連盟理事長

富山大学教育学部教授

新井 文男

Fumio Arai
Board of Directors, Toyama Choir League
Professor, the department of education Toyama University

名水の里に響け 歓喜の歌

黒部市民だけでなく県民にもおなじみになった「名水の里第九コンサート」。早いもので今年で4回目を迎える。今年も名水の里・黒部で喜びのシンフォニーに没れることを嬉しく思う。昨年は黒部市国際文化センター・コラーレのオープン記念事業として、黒部と姉妹都市の米国ジョージア州メーコン市から合唱団員を招かれ、地元合唱団とのジョイントで素晴らしいハーモニーを聴かせていただいた。今回は同じく姉妹都市のオランダ・スネーク市の市民合唱団が招待出演される。国際交流の盛んな黒部市ならではのグローバルな第九に今回も胸が躍る。

昨年の名演の記憶も鮮やかな十東高宏さん指揮、東京シティ・フィルのメンバー、地元黒部出身のソプラノ、岩井理花さんらソリストの皆さんの熱演に期待したい。

北日本新聞社が古くからお世話している富山の「第九」（公演数32回）、新潟の「第九」（同12回）と同様、「名水の里第九」が市民に愛され、ますます発展していくことを祈念してやまない。

お祝いのことば

「第4回名水の里第九コンサート」が、旧暦の正月二日という佳日に開催され、黒部市国際文化センター「コラーレ」に歓喜の歌声が響き渡ることを、心からお慶び申し上げます。

今回は昨年のアメリカ・メーコン市に続き、姉妹都市交流の第二弾としてヨーロッパのオランダ王国・スネーク市とのジョイントコンサートが16名の合唱団を迎えて実現したものです。スネーク市はYKKの前社長・故吉田忠雄さんが名誉市民として親しまれ、交流深かった黒部市ゆかりの都市でもあります。地域参加型の温かな合唱交流で国際交流の拠点劇場となる「コラーレ」は歓喜の渦に包まれ、名水の里は躍動感にあふれることでしょう。“海を越えたハーモニー”が海をこえ、広く世界に新たな歴史を刻んで行くものと思います。

大成功をお祈りいたします。

新しい歌声を

第4回名水の里第九コンサートの開催を心よりお祝い申し上げます。このコンサートは、ベートーヴェンが「Alle Menschen werden Brüder…すべての人々は歓喜のもとで兄弟になる」と力強く歌うように、毎回世界に呼びかけ、国際交流を深めて公演されて来た。今回はオランダ王国よりスネーク市民合唱団が参加されるとのこと、関係各位のご努力の大きさに敬意を表したい。黒部で第九を歌う会の歌声も、この交流の中で新しい響き、広がりを得て、美しい歌を奏でるものと期待する。

昨年末の富山の第32回「第九」公演は、新しい市芸術文化ホールのオープンにふさわしい、充実した良い演奏が出来た。500人のコーラスと満員の聴衆が一つになった熱い思いで、富山の第九、市公会堂での30数年の伝統を新しい本拠地に引き継ぐことが出来たと思っている。

合唱のすばらしさは、多くの人々が集い、心をつなげた交流の中に音楽を創造する喜びであろう。偉大な音楽を全身全霊で受けとめて表現して行くところに、音楽の大きな力が発揮される。精神の在り方に問題がなげかけられている今日、音楽を愛し、



黒部国際交流音楽祭

第4回 名水の里第九コンサート

1997 2.9 SUN 開場 13:00
開演 14:00

会場/黒部市国際文化センター

コラーレ (カーターホール)

曲 目/ベートーヴェン:交響曲第九番 二短調 作品125 「合唱付」
ヨハン・シュトラウスII世:喜歌劇「こうもり」序曲

指揮/十束 尚宏

独 唱/ソプラノ 岩井理花 (二期会会員)

ア ル ト 伊原直子 (二期会会員)

テノール 成田勝美 (二期会会員)

バ ス 高橋啓三 (二期会会員)

演 奏/東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

合 唱/オランダ王国・フリースランド州スネーク市民合唱団

黒部で第九を歌う会



Program Notes

二短調 作品125 「合唱付」

ベートーヴェンが「第九」を完成させたのは、1824年の春まだ浅いころのことである。当時すでに53才になっていた彼は聴覚をまったく失っていた。しかし、その偉大なる精神と長年心の中に温めていたシラーの詩への熱い思いが、この大曲を完成に導いたのである。

ベートーヴェンがシラーの頌歌「歓喜に寄す」に出会ったのは、まだ20代の初めのころ。この詩の底に流れる民主的な思想にたいへん感激したベートーヴェンは、その時からいつかこの詩に曲をつけたい…と願っていたのである。その積年の思いがようやく実行に移されることになったのは47才のとき。実に30年という歳月を経て初心を貫いたことになる。

ベートーヴェンはこの偉大なる交響曲で一体何を言いたかったのか。自分自身の苦悩を経て喜びへ、ということだけでは決してないはず。彼は生涯独身であった。しかし、女性にあこがれ、友人を求め、弟や甥などの家族を大切にされた。彼は人間をこよなく愛する人であった。この冒頭の「友よ！」という呼びかけは、すべての友に対するものなのである。自分のまわりの友、世界の友、そして時を越えて、20世紀に生きている私たちにも「友よ！」と語りかけているのだと思う。「みんなで苦しかったことを忘れ、明日に希望をつなごうじゃないか」とベートーヴェンは言いたかったのではないか。その温かな人間好きのベートーヴェンの心情が音楽から感じられるからこそ世界の人々にこんなにこの曲が愛されているのではないだろうか。彼はモーツァルトのように天才とは呼ばれないし、バッハのように家庭に恵まれたわけでもない。そしてシューマンのように繊細とも評されないし、ショパンのように容姿に恵まれたわけでもない。ベートーヴェンは努力の人といわれ、私たち普通の人間の代表格のような親密感を備えている。そんな



Allegro ma non troppo un poco maestoso

広大な宇宙を思わせる神秘的な力強い旋律が、壮大な交響曲の開始を告げる。これは人生の苦悩や悲しみ、希望や愚めなどあらゆる感情が表現されている楽章である。ベートーヴェンは自分の生涯を振り返り、人生を戦いに例えたのではないだろうか。劇的で強いメッセージを持つ、幕開けにふさわしい音楽である。

●第2楽章 Molto vivace

弦の鋭い響きが全体に躍動感を与えている。また、ティンパニの小気味よいリズムも印象的である。これは初演時に大きな喝采を持って迎えられた楽章である。衝撃的なティンパニの独奏は当時の人々を驚かせ、アンコールの拍手がなりやまなかったとか。魂が浄められるような美しさ、そしてユーモアの精神も感じられる。

●第3楽章 Adagio molto e cantabile

美しいゆるやかな楽章で、神への感謝を表すような祈りの気持ちが表現されている。やさらかな主題の変奏にはさまれた中間部が特に美しく歌われる。終わり近くのホルンの長いソロは、この時代としては画期的な用いられ方だったよう。歓喜を前にしたやすらぎを感じさせ、来るべき何物かに心の準備をうながすかのような。

●第4楽章 Prest-Allegro assai

プレスト（きわめて速く）のファンファーレから始まり、低弦が何かを語りかけるようにレシタティーヴォを奏でる。続いてこれまでの3つの楽章の主題が少しずつ順番に現われてはそのたびにレシタティーヴォが打ち消し、そしてついにあの「歓喜の主題」が開かえてくる。やがて大音響とともにバリトン独唱によって「おお、友よ、このような調べではなく、もっと快い、喜びに満ちあふれた調べを歌おう」と力強く歌われ、独唱、重唱、合唱、オーケストラを

●ヨハン・シュトラウスⅡ世：

喜歌劇「こうもり」序曲

ヨハン・シュトラウスⅡ世（1825～1899）のオペレッタは16曲あるが、その最高傑作が1874年に初演された「こうもり」である。浮気なアイゼンシュタインが、「こうもり」という仇名をもつ友人ファルケの計略で、妻ロザリンデや女中のアデーレなどに散々からかわれる…というコミカルなストーリーが、ワルツ王らしく美しいワルツをふんだんに散りばめた軽妙な音楽で綴られていく。

序曲はオペレッタ全体からとられたいくつかの主題を接続して作られている。アレグロ・ヴィヴァーチェの総奏によるオープニングのあと、アレグレットでオーボエに出る旋律は第3幕の三重唱、トゥッティの再現のあとで鳴る時計を模した音型は第2幕フィナーレ、次のワルツは第2幕で一同が踊り歌う曲、アンダンテでオーボエの歌う哀しげなメロディとそれに続くホルカ調の音楽は第1幕の三重唱、というように構成されている。これらの主題が入り混じって盛り上がり、ピウ・ヴィーヴォの華やかなコーダで曲を閉じる。



ヨハンⅡ世のオペレッタの中で、今日でも始終上演されるのが、「こうもり」と「ジプシー男爵」。写真はライムント劇場で上演された「こうもり」の舞台。



1874年の初春、シュトラウスⅡ世は、この家に6週間の間とじこもり、妻ヘンリエッテ以外の誰とも会わずに、宴會を安

歡喜の歌

《ベートーヴェンの自作》

おお、友よ、この音楽ではない。
もっとこころよい、
もっと喜びに満ちた音楽を、
われわれはかなでよる。

《F. シラー原詩》

喜びよ、美しい神々の火花よ、至福の島エリーシウム（Elysium）の娘よ、
われわれは火のように酔いしれて、崇高なところ、おまえの聖所へ踏み入る。
おまえの魔力は世のならわしがきびしく別けへだてたものを
ふたたび結び合わせ、すべての人びとは
おまえのやさしい翼のやすらうところに兄弟となる。
一人の友の友となる大きな成功を得たものは、
やさしい妻をかり得たものは地上にただ一つの魂でも
自分のものと呼びうる者は、その歡喜をとものにせよ。
そしてそれができなかった者は、
泣きながらひそかにこの仲間から立ち去るがよい。

すべてのものは自然の乳房から喜びを飲む。
すべての善いものも、すべての悪いものも、
自然のバラ色の道を辿ってゆく。自然はわれわれに接吻を与え、
ふどうと、死の試を経た友を与えた。快樂は虫に与えられた。
そして光の天使ケルブは神の前に立つ。うれし気にひかりかがやく太陽が
壮麗な天界をわたるように、兄弟たちよ、
英雄が勝利に向かってすすむように、きみたちの道を喜ばしく進め。

数百万のひとびとよ、抱き合え。この接吻を、全世界へ。
天空のあなたに愛する父が住んでいるにちがいない。
きみたちはひざまづくか、
数百万のひとびとよ。
創造主に気付くか、世界よ。
天空のあなたに創造主を求めよ。
星のあなたに彼は住んでいるに違いない。

O Freunde, nicht diese Töne !
Sondern laßt uns angenehmere
anstimmen, und freudvollere.

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum !

Deine Zauber binden wieder, was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder, wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele sein nennt auf dem Erdenrund !

Und wer's nie gekonnt, der stehle,
Weinend sich aus diesem Bund !

Freude trinken alle Wesen, an den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen, fliegen durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet ! Brüder, eure Bahn, freudig, wie ein Held zum Siegn.

Seid umschlungen, Millionen ! Diesen Kuß der ganzen Welt !
Brüder ! überm Sternenzelt muß ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !

Conductor

Naohiro Totsuka



指揮／十束尚宏

1960年東京に生まれる。幼少の頃よりピアノを学び、15才より指揮を高階正光に師事。桐朋学園大学音楽学部指揮科では、故森正、小澤征爾、秋山和慶、黒岩英臣、尾高忠明の各氏に師事。さらに同大学研究科に入学し研鑽を積む。

1982年大学在学中には、第17回国民指揮者コンクールで第1位に入賞し、1983年にはボストン交響楽団主催のタングルウッド音楽祭にパークシャー・ミュージックセンターのフェローシップ・コンダクターとして招かれクーセヴィツキー指揮大賞を受賞する。この受賞は、日本人として1960年の小澤征爾に次いで2人目という快挙であった。1984年、ボストン交響楽団に副指揮者として招かれ、新日本フィルハーモニー交響楽団第117回定期演奏会でデビュー。同年5月より1年間ベルリンに留学し、その間にもタングルウッドにおいて、レナード・バーンスタイン、アンドレ・プレヴィン、クルト・マズア等世界第一級の指揮者に師事した。

1985年「第11回若い芽のコンサート」にてNHK交響楽団を指揮。

1986年4月、ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会を指揮し、ヨーロッパ・デビューを飾り、翌年6月同フィルによるロッシーニの「シンデレラ」を指揮してオペラ・デビューを果たした。

1988年にはゾーリンゲン市立管弦楽団、さらに群馬交響楽団の指揮者に就任し、翌年4月から1992年3月まで正指揮者を務める。

1989年4月と1992年2月にはNHK交響楽団も指揮し大きな注目を集める。

1992年9月から東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者、1994年5月より広島交響楽団の音楽監督に就任し意欲的な活動を続けている。

Tokyo City Philharmonic Orchestra



Performer

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団は、1975年自主運営のオーケストラとして、若く才能のある演奏家たちによって設立された。その年、ベオグラード音楽祭開幕演奏会を含むヨーロッパ公演、香港、マカオ公演を成功させ、プロオーケストラとしての軌道を築く。その後1985年にはオーストラリアのブリスベンとシドニーで行なわれた「題名のない音楽会」20周年記念演奏会に出演し、各地で絶賛される。1991年の第73回定期演奏会では文化庁芸術祭協賛になるなど、順調に成長を続け、現在も音楽的な進歩を追従して止まない。また年8回の定期演奏会をはじめ、「希望コンサート」など自主公演を活動の柱とし、クラシック音楽ファン拡大のためのポップスコンサート、スクリーンミュージック等も積極的に開催している。その他オペラ、バレエ等、TV、レコード録音など広範囲に活躍し、特にTVにおいてはNHK総合ch「ときめき夢サウンド」、テレビ朝日「題名のない音楽会」を通じてその新鮮な魅力溢れる演奏を披露し、全国的に好評を博している。

創立20周年にあたる1995年には定期演奏会も100回を越え、江東区と提携関係を結ぶなど、新たな飛躍の年として充実した活動を展開している。

常任指揮者は、流麗なバトンテクニックと豊かな音楽性に定評のある十東尚宏。コンサートマスターには若くして将来を囑望されている山本友重、戸澤哲夫を擁している。また、芸術顧問として黛敏郎が就任している。



Soprano
Rika Iwai

〔ソプラノ〕
岩井理花

東京芸術大学及び同大学院修了。
1985年第54回日本音楽コンクール第2位。1988年ノヴァラ国際音楽コンクール入賞。
ティト・スキーパー国際声楽コンクール第2位(1位なし)。1992年第1回藤沢オペラコン
クール第2位。1986年文化放送賞受賞。1995年ジロー・オペラ賞受賞。1996年北日本
新聞社より芸術選奨を受賞。
1982年「ラ・ボエーム」のミミでデビュー。1987年より1990年までミラノに留学。
レッツェ市のボリテアマ歌劇場において「ラ・ボエーム」のムゼッタをはじめ「ファ
ウスト」のマルゲリータ、「蝶々夫人」のタイトルロール等を演じる。1991年のリサ
イタルで好評を博し、続く二期会創立40周年記念「神々の黄昏」ではヴェルグンデで
も高い評価を得た。以後「ラインの黄金」のフライア、藤沢市民オペラ「トゥーラン
ドット」のリユー、小澤征爾指揮・新日本フィル公演「トスカ」のタイトルロール、
「トロヴァトーレ」のレオノーラ、鎌倉芸術館・若杉弘指揮「撒羅米(サロメ)」では、
歌舞伎の様式を借りて日本の美意識を息づかせてみせた。さらに東急文化村での「マ
ダム・バタフライ」「ワルキューレ」のジークリンデ、富山県における「お小夜」の
タイトルロール、と立て続けに大役を演じ何れも絶賛される。リリコ・スピントの美
声と舞台映えする容姿で、次世代を担うプリマとして期待されている。二期会会員



Alto
Naoko Ihara

〔アルト〕
伊原直子

東京芸術大学および同大学院修了。
1967年安宅賞受賞。1970年芸術選奨文部大臣新人賞、MBCA J賞受賞。第8回ジロー
オペラ賞大賞受賞。1971年西ドイツ政府給費留学生としてミュンヘン国立音楽大学に
留学する傍らベルリン歌劇場他ドイツやスイス各地でオラトリオを歌う。1969年「ラ
インの黄金」のエルダでオペラデビュー。その後N響はじめ主要オーケストラとの共
演には高い評価を得る。1975年フランスのストラスブル歌劇場と専属契約を結び数
多くのオペラに出演し名声を博した。コンサートも「復活」「マタイ受難曲」などヨー
ロッパ各地で活躍した。1980年には二期会オペラ公演「カルメン」(小澤征爾指揮)
のタイトルロールを務め、さらに1989年ボストン交響楽団(小澤征爾指揮)と共にボ
ストン、香港、日本でマラー「交響曲2番」を歌う。1990年2月の二期会創立40周
年記念公演では「お蝶夫人」のスズキで好評を博し、7月にはフィンランドで行われ
たサヴォリンカ・オペラフェスティバルに出演。1991年2月の「リゴレット」、7月
には「神々の黄昏」を歌い、殊に後者への出演で22年の年月をもって完結した二期会
の〈リング〉4部作全部に出演した唯一の歌手となり、名実共に日本を代表するプリ
マドンナとしての地位はより一層揺るぎないものとなる。コンサートへの出演にも精
力的で、とりわけマラーのスペシャリストとしての名声が高く、主要オーケストラ
との共演も多数に及ぶ。二期会会員

Chorus

黒部で第九を歌う会



ソプラノ

- | | | | | | |
|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 青山 富枝 | 伊野久美子 | 鬼原まゆみ | 経田 恵子 | 橋爪 晴子 | 森山美加子 |
| 朝野優美子 | 岩山留美子 | 窪野多寿子 | 土肥真優子 | 浜屋 真美 | 山口 希美 |
| 阿閉 恵子 | 上田 京子 | 小森 絵美 | 中陣 亜子 | 廣木とも子 | 山本 光子 |
| 飯村 香織 | 上野志津子 | 坂本 利子 | 長田 雅子 | 松原ちあき | 山田美穂子 |
| 伊藤 容子 | 大勢持祐美子 | 佐竹ひとみ | 西川 睦子 | 三浦 博子 | 結城美喜子 |
| 稲葉恵美子 | 角本 睦子 | 杉沢 禎子 | 西田りう子 | 宮崎巳生子 | 吉田喜代美 |
| 大田ゆか子 | 勝原 幸恵 | 高見 玲子 | 西山 靖子 | 宮島亜紀子 | |
| 大平美保子 | 吉島加都子 | 田村 聡美 | 能島 京子 | 村椿 尚美 | |



Tenor
Katsumi Narita

[テノール]
成田勝美

国立音楽大学声楽科首席卒業。武岡賞受賞。皇居桃華楽堂にて御前演奏。読売新聞社主催新人演奏会に出演。オットマール・スウィートナー指揮によるN響公演オペラ「アチスとガラテア」にアチス役で出演。昭和58年度文化庁芸術家国内研修員。二期会オペラスタジオ修了時に優秀賞受賞。第14回イタリア声楽コンソルト第1位、ミラノ大賞受賞。第19回ジロー・オペラ賞新人賞受賞。1984年ミラノ・ヴェルディ音楽院に留学。1986年スカラ座の外国人オーディションに合格。1987年オペラ「カルメン」のドン・ホセ役で二期会オペラデビュー。身長187センチの恵まれた容姿にリリコスピントの美声で好評を博した。1988年関西二期会公演「タンホイザー」でタイトルロールを演じ、1990年2月二期会創立40周年記念公演「お蝶夫人」にピンカートン役で出演し、同年7月フィンランドにおけるサヴォリンナ・オペラフェスティバルに参加、1991年7月同40周年記念公演「神々の黄昏」で難役ジークフリートを見事に歌い賞賛された。これまでに「椿姫」のアルフレード、「リゴレット」のマントヴァ侯爵、「蝶々夫人」のピンカートンなどの主役を演じている。その後も数少ないリリコテノールとしてイタリア、日本各地で活躍を続け、新聞評等で「輝かしい声」「歌唱にもかなり円熟味を示し…」など好評を博したばかりである。「題名のない音楽会」「NHKニューイヤーオペラコンサート」などTVでも幅広く活躍している。二期会会員



Bass
Keizou Takahashi

[バス]
高橋啓三

東京芸術大学卒業。
第44回日本音楽コンクール第2位受賞。1982年第10回、ならびに1989年第17回ジロー・オペラ賞を受賞。
芸大在学中に「トスカ」のアンジェロロッティでデビュー。その後二期会を中心に藤原歌劇団、イタリア歌劇団（NHK）、日本オペラ、オペラプロデュース等の公演に出演。豊かな声量を誇る美声のバス・カンタービレとしてオペラに欠くことのできない存在である。主な役に「フィガロの結婚」のフィガロ、「魔笛」のザラストロ、「リゴレット」のスバラフチレ、「愛の妙薬」のドゥルカマラ、「タンホイザー」のヘルマン、「修善寺物語」の夜叉王等があり、スケールの大きい歌唱力と演技力で絶賛されている。最近では二期会創立40周年記念公演「神々の黄昏」のハーゲンを演じ、「その凄味のある歌唱と演技はひときわ精彩を放ち、舞台に緊張感を与えるに充分であった。」と絶賛された。また二期会創立40周年記念公演「ラ・ボエーム」のコルリーネ、「シモン・ボッカネグラ」のヤコボ・フィエスコでも好評を博した。
コンサート分野でも、「第九」「レクイエム」「メサイヤ」「マタイ受難曲」「ロ短調ミサ」など幅広いレパートリーを持ち、N響をはじめ主要オーケストラと共演も多く、我が国を代表する声楽家として活躍している。二期会会員

アルト

- | | | | | |
|-------|--------|--------|-------|-------|
| 朝田美尾子 | 小倉 洋子 | 竹内美和子 | 飛騨 恵子 | 安原 麗子 |
| 新井 美穂 | 紙谷 米子 | 竹山 孝子 | 平山 順子 | 山越 明代 |
| 荒木美津子 | 木井 容子 | 大上戸美智子 | 福沢 英子 | 山沢 葛枝 |
| 池村 玉江 | 岸上七百子 | 東狐 和 | 福島やす子 | 山田寿美子 |
| 稲沢多鶴子 | 木野本靖子 | 得能真知子 | 藤田 貴子 | 山田 信子 |
| 入江 清美 | 木本久美子 | 土井 暁子 | 前田 ふさ | 吉田 優子 |
| 上原 暁美 | 熊野 幸子 | 堂口沙笑子 | 松尾 珠美 | 余西 典子 |
| 扇谷美美子 | 窪野さより | 中坂 陽子 | 松田多賀子 | |
| 大懸 桂子 | 五艘萬里子 | 中島二美子 | 宮田 京子 | |
| 大坪由美子 | 近藤外喜子 | 七沢 幸子 | 宮田 淳子 | |
| 大野 順子 | 佐々木美和子 | 橋元美輪子 | 村井 富子 | |
| 萩野 敦子 | 城 保子 | 長谷川結子 | 村瀬 靖子 | |
| 萩野美知子 | 関口 隆子 | 花岡 光子 | 森田美和子 | |
| 萩野 基子 | 高村 広子 | 晴枝 富子 | 森田 優子 | |

テノール

- | | |
|-------|-------|
| 魚谷 国勝 | 福島 光繁 |
| 大野 久芳 | 藤田 信幸 |
| 尾川 敬一 | 前島 秀敏 |
| 小倉 政美 | 松倉 正機 |
| 籠浦 哲郎 | 山口 正人 |
| 越 雄一 | 山崎 良一 |
| 桜井 麗 | |
| 滝本 武 | |
| 田中 哲彦 | |
| 南保 弘幸 | |
| 西中 雅博 | |
| 野住 勝徳 | |
| 八川 進 | |
| 広野 誠 | |

バス

- | | |
|-------|-------|
| 織田 和宏 | 幅口文史郎 |
| 加藤 敏明 | 広瀬 孝信 |
| 川原 辰雄 | 平田 謙司 |
| 黒田 謙一 | 松島 英志 |
| 小林 哲哉 | 松谷 茂樹 |
| 鳥倉 敏夫 | 武藤 泉 |
| 田中 義三 | 米田 幹雄 |
| 大上戸里志 | 米田隆太郎 |
| 寺林 武司 | |
| 土肥 弘幸 | |
| 中 毅 | |
| 長田 行正 | |
| 長谷川和衛 | |
| 長谷川光一 | |

青 山 富 枝 第九を歌う会会員
 浅 岡 洋 平 ニューヨーク在住チェリスト
 浅 岡 恵 子 ニューヨーク在住ピアニスト
 朝 倉 秀 芳 (財)カーメンテナンス朝倉代表取締役
 浅 野 博 浅野ヒッパ家具工業㈱社長
 朝 田 美尾子 第九を歌う会会員
 飯 野 孝 イイノ内装
 池 田 健 吉 池田内科医院
 池 村 玉 江 第九を歌う会役員
 石 村 信 一 ㈱石丸楽器社長
 泉 田 利 祐 泉田醤油店代表取締役
 稲 沢 多鶴子 第九を歌う会会員
 稲 葉 恵美子 第九を歌う会会員
 伊 野 久美子 第九を歌う会会員
 入 江 清 美 第九を歌う会会員
 岩 井 忠 澄 黒部愛児保育園園長
 植 木 真 人 ㈱植木代表取締役
 扇 谷 美美子 第九を歌う会会員
 大 坪 健 大坪法律事務所
 大 坪 作 磨 ㈱生地第一温泉代表取締役
 大 坪 由美子 第九を歌う会会員
 大 野 久 芳 黒部市議会議員
 萩 野 敦 子 第九を歌う会会員
 萩 野 幸 和 黒部市長
 小 倉 政 美 第九を歌う会会員
 女 川 清 女川歯科医院
 角 本 睦 子 第九を歌う会会員
 湯 田 正 夫 湯田石油㈱社長
 加 藤 耕 一 (財)音楽舎カトウ社長
 金 田 亮 金田外科医院
 川 端 康 夫 川端織工㈱代表取締役
 川 原 辰 雄 YKK株式会社総務部
 木 井 容 子 第九を歌う会会員
 北 山 善之進 北山歯科クリニック
 北 山 良 清 (財)北山仏具店代表

吉 高 加都子 第九を歌う会会員
 狐 塚 省 藏 宇奈月グランドホテル常務取締役
 熊 野 幸 子 第九を歌う会会員
 黒部市芸術文化振興協会
 小 林 哲 哉 前沢ガーデンハウス料理長
 米 屋 章 (財)協和印刷社代表取締役
 米 屋 芳 人 (財)米屋電気㈱代表取締役
 近 藤 外喜子 第九を歌う会会員
 五 艘 萬里子 第九を歌う会会員
 斉 木 クニエ (財)斉木建築
 坂 井 守 グリーンホテル温泉代表取締役専務
 坂 本 利 子 第九を歌う会会員
 島 倉 敏 夫 YKK株式会社専務取締役
 城 保 子 第九を歌う会会員
 助 田 義 之 高東興業㈱社長
 関 口 隆 子 第九を歌う会会員
 大 上 戸 茂 夫 大上戸電気㈱
 高 岡 尚 子 黒部市連合婦人会会長
 高 見 玲 子 第九を歌う会会員
 高 村 広 子 第九を歌う会会員
 滝 本 武 第九を歌う会会員
 田 中 純 子 黒部市議会議員
 辻 武 黒部商工会議所専務理事
 椿 秀 雄 黒部混声合唱会主宰
 土 井 暁 子 第九を歌う会会員
 鳥 居 義 知 エスクワイヤシティホテル代表取締役
 中 上 彬 第九友の会会長
 中 島 重 春 中島観光百貨店
 中 島 二美子 第九を歌う会会員
 中 陳 和 一 生地蒲鉾㈱代表取締役
 中 田 勝 代 中田勝代音楽教室主宰
 長 田 雅 子 第九を歌う会会員
 南 保 弘 幸 黒部市収入役
 能 沢 作 次 (財)黒部市施設管理公社理事長
 能 島 京 子 第九を歌う会会員
 橋 元 美輪子 第九を歌う会会員

橋 本 光 (財)ヤマダ下町代表取締役
 長谷川 徹 ㈱長谷川工務店代表取締役
 長谷川 弘 九弘木材店社長
 八 川 進 第九を歌う会会員
 浜 田 浩 志 (財)延寿代表取締役社長
 浜 屋 真 美 第九を歌う会会員
 晴 枝 富 子 第九を歌う会会員
 バ レ ス 扇 寿
 飛 弾 恵 子 第九を歌う会会員
 平 井 輝 子 「青い空」主宰
 平 岡 国 雄 桜井ハム代表理事
 廣 木 とも子 第九を歌う会会員
 広 野 誠 荻原ひろの専務取締役
 舟 屋 悦 郎 ㈱ふなや代表取締役
 堀 内 三 郎 富山県議会議員
 前 田 ふ さ 第九を歌う会会員
 丸 田 信 夫 丸田工業㈱代表取締役
 三 浦 博 子 第九を歌う会会員
 宮 腰 光 寛 富山県議会議員
 宮 崎 巳生子 第九を歌う会会員
 宮 田 淳 子 第九を歌う会会員
 武 藤 憲 夫 富山女子短期大学助教授
 武 藤 葉 子 黒部音楽院講師
 本 崎 正 富 前黒部ロータリークラブ会長
 森 丘 實 第九を歌う会会長
 森 田 直 人 大阪府・㈱片山製薬所研究部
 森 山 美加子 第九を歌う会会員
 山 越 明 代 第九を歌う会会員
 山 沢 蔦 枝 第九を歌う会会員
 山 下 武 志 山下製材所専務
 山 谷 国 昭 (財)山谷書店代表取締役
 山 田 英 明 桜井中学校教諭
 余 西 典 子 第九を歌う会会員
 米 沢 幸 明 黒部紙業㈱代表取締役

あいうえお順 (敬称略)

黒部で第九を歌う会役員

会 長/森丘 實
 友の会会長/中上 彬
 副 会 長/松倉正機
 武藤憲夫
 長谷川光一
 顧 問/萩野幸和
 宮腰光寛
 堀内三郎
 黒部市議会議長

参 与/黒部市総務文教委員長
 副委員長
 田中純子
 大野久芳
 新村文幸
 萩野静二
 監 事/南保弘幸
 島倉敏夫
 事 務 局 長/三井適夫

運 営 委 員/田中義三 山口正人 池村玉江
 高岡尚子 長田美津枝 前田ふさ
 川原辰雄 広野 誠
 石川幹夫 三井 香
 特 別 講 師/浅岡篤夫
 合 唱 指 導/椿 秀雄 三井 香
 練 習 伴 奏 者/法原留美佳